

● 相互交流記憶システムとその教育への応用 ●

Keywords : 認知的分業、共同記憶、協調行動、メタ記憶、Transactive Memory System(TMS)

◆研究概要

日常記憶研究の文脈で、符号化時の他者との相互作用が記憶過程に与える影響とその教育的応用について研究している。研究目的は、符号化時の協同性が個人の記憶成績や記憶方略に与える影響と、そのモデルとなると予想される相互交流記憶システム(TMS)の生起機序の解明である。従来の記憶実験では、個人が単独で課題に取り組む過程が研究されてきた。そのため、協同的記憶課題におけるTMSの発達や協同的メタ記憶については十分な知見がない。そこで、他者との相互作用のなかで自らの記憶方略を決めていく認知的分業発達に注目し研究を行っている。

教育推進センター
教育心理学研究室
教授

ありま ひろし
有馬 比呂志

arima@hiro.kindai.ac.jp



●応用可能な用途例

- ・協同学習課題と評価
- ・組織におけるチームワーク
- ・福祉・教育支援ロボットと人間の協同

●研究テーマ

1. 符号化時の協同性が個人の記憶方略に与える影響
2. 符号化時の協同性が記憶に及ぼす影響の生起機序
3. 利他的行動の教育効果
4. 協同の心理教育的支援

●論文・特許等

1. 児童における2者間の自発的分業の発達. 対人社会心理学研究, 12, (2012), 77-83.
2. 中学生における自発的ピア・サポートが自己成長に及ぼす効果. 学校メンタルヘルス, 13, (2010), 35-39.
3. 符号化時の協同性が単独想起に及ぼす効果. 協同と教育, 6, (2010), 12-20.
4. 発達と教育の心理学: 子どもからおとなへの発達支援のために (共著) あいり出版, (2011).
5. 子どもはどう考えるか: 認知心理学から見た子どもの思考(共著) おうふう, (2010).

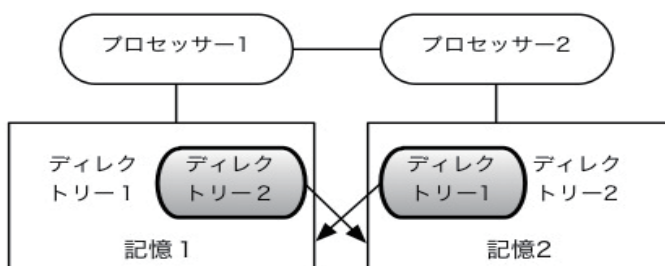


図1 ネットワークの分散処理になぞらえた Transactive Memory System のモデル (Wegner, 1995)

注 図中のプロセッサ1、2は、個人の情報処理過程を情報処理装置になぞらえたものである。2者のそれぞれの記憶(記憶1、記憶2)には、自身の記憶の索引にあたるディレク トリーばかりでなく相手のディレク トリーも保持されており、互いに相手の記憶を参照できるようにシステムが構成されている。